



寺 10663
清 12863
宝小 58-1

宝清寺橋墓苑指定石材店



石の武蔵家

現地管理事務所 TEL0425150123

御難公云・秋彼岸・御公云云

◇九月十二日は御難会と言つて、日蓮聖人が二度目の幕府への諫言により、鎌倉の竜ノ口にて斬首刑に処せられると言ふ謀略に遭うが、法華経の行者を守護する善神のおまじか、突然、光ものが現れて、役人の刀は三つに折れ、奇跡的にその刑を免れた。この一二七一年九月十二日に遭われた竜ノ口の法難にちなみ、日蓮宗各寺院で御難会の法要が厳修されます。当山では、御難日講の方を中心に夕方の法要の後、ぼた餅を食べ日蓮聖人を偲んでいきます。

◇九月二十日と二十六日は秋のお彼岸です。彼岸の中(秋分の日)は太陽が赤道正に位置し、一年を通じて昼と夜の長さが同じです。こうした自然現象と右にも左にも偏らないお釈迦さまの説かれた教えと重なって、「中道の目」とも呼びます。お彼岸に墓参をして先祖の霊に供養のまこと捧げ、お釈迦様の教えのように自分自身の生き方をチェックするよすがと致しましょう。

◇十月十二日は日蓮聖人の命日に當む、日蓮聖人報恩の法会、おん公云云式です。当山では当日、二時と七時の二回法要を厳修致します。お会式には誦読塔婆(ふじゆとうば)をあげて先祖の供養をします。又、交通安全・子育て鬼神の祈願もお受けします。うどんなも名物で屋台の店も出て賑わいます。

お釈迦様は、苦しみからの解放の道を求めて、その原因と解放の方法を発見され、心にとらわれをはなれる実践として、前号で紹介した「六つの行い」を示されました。今回はその二として、「持戒波羅蜜」について解説いたします。「戒」というのは、自らの願いによって慎む態度のことです。お釈迦様は「身について慎むのは善い。ことばについて慎むのは善い。心について慎むのは善い。修行者はあらゆる事柄について慎みから脱れ、「六つの行い」その二、持戒戒

総代理

松岡 喬一様
勇退
八月三十一日付

昭和四十八年、先代住職が本堂屋敷替え工事をお檀家の皆様の協力を得て完成させた時から、世話人を経て総代をお願いしていた松岡喬一様が、高齢と言う事で辞退の申し出がありました。お寺としては七面堂の建立等の建設ばかりでなく毎年行われる「御会式」の会計処理など大変お世話になり、感謝しております。引き続きお願いしたいところですが、やむを得ない事情と判断し受理しました。

後任総代に

沼利利一様
就任
松岡喬一様の後任には、現、総代・世話人と相談の

宝清寺略歴

本寺は西多摩郡唯一の日蓮宗で、身延山久遠寺の本寺です。最初は、東照山と号していましたが、宝永年中(江戸時代・七〇四年)水谷信濃守の祈願所としたことにより水谷山と改めたといわれています。

開山は法清院日徳上人、開基は青木堪左衛門、元和年中(江戸時代・一六六六年)に創立されました。

洗い地蔵

大曼陀羅・日蓮大聖人七面大明神・鬼子母尊神十羅刹女
タワシでお地蔵さまをこすりながら、お願いごとをすると、病氣や苦悩を救つてくださるといわれています。多くの方がお参りにみえています。

管理料納入

結果、明治初期からお檀家として、陰に陽に当山を支えて頂いたお檀家の一人、沼家の子孫で、現在、吉祥寺にお住まいの沼利二様にお願ひ致しました。沼利二様は自営のお仕事上、重要な役職にお就きですが、ご先祖のためにと心よく御引き受け頂き、九月一日付で就任する事になりました。法は持参か振込で願ひます。

し先祖に塔婆供養を!

お彼岸に際し塔婆供養をお勧め致します。お塔婆は故人の追善供養のために遺族や親戚の人たちによつて立てられますが、お釈迦さまが亡くなられた時に供養のために立てられたのが始まりといわれ、お塔婆は大きくは宇宙とわれわれ人間の身体を表しています。人間と宇宙を一つとみなし、お塔婆を立てることによつてご先祖に対して、仏教の徳が示され御霊をお慰めする事になる訳です。
※お塔婆のお申込は同封の葉書か電話・FAXでお願ひ致します。

お知らせ

★新田墓地の水屋を整備しました。新墓地に三箇所、旧墓地に二箇所、計五箇所に手桶を各箇所に十二セット備えつけました。今までご不便をお掛けしましたがこの工事でも管理料より工事費を補い完成しましたのでお知らせします。

★年回に当たつていらっしゃる仏様がいらつしやるお宅には、葉書でご連絡させて頂いておりましたが、最近、お檀家も増え、ご希望の日時が合わなくなることが多くなりました。ご予定がご決まりになり次第お早めにご連絡下さることをお勧め致します。

★墓参用お花、お線香を常備★
(下九日と二十六日)
お花は一束
お線香は
一〇〇円

宝清寺
住職 石井 前隆
秋川市小川一〇一
局番(〇四二五)
TEL 五八二二六六三
FAX 五八二六三八七